

県かこ

## 地域医療連携ニュース vol.74

2016年12月号  
 発行  
 兵庫県立加古川医療センター  
 T675-8555  
 加古川市神野町神野203番地  
 TEL: 079-497-7000  
 (代表)  
 TEL: 079-497-7011  
 (地域医療連携部直通)  
 FAX: 079-438-3756  
 (地域医療連携部直通)  
<http://www.kenkako.jp/>

## もくじ

- 第8回県かこ県民フォーラムを開催 ..... ①
- 診療科紹介 形成外科 ..... ②
- 診療科紹介 循環器内科 ..... ③
- 乳がん患者会「虹の会」のご紹介 ..... ④

**第8回県かこ県民フォーラムを開催しました。**

平成28年10月15日(土) 加古川市民会館小ホールにて、一般県民の方を対象とした第8回県かこ県民フォーラムを開催いたしました。

本年4月に甲南加古川病院から診療機能が移管され、リウマチ科・リウマチ膠原病センターを開設したことから、テーマを「リウマチ・膠原病の最新治療」とし、4人の講師が講演しました。

**「膠原病のABC」**

リウマチ膠原病センター長 田中 泰史

膠原病は全身の「結合組織」が病変の主座で、多数の臓器が同時に障害を受ける症候群であり、ひとつの病気ではないこと、具体的に全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎と皮膚筋炎、血管炎症候群それぞれの特徴や治療について説明がありました。

**「進歩した関節リウマチの治療」**

リウマチ膠原病センター次長 塩澤 和子

関節リウマチの診断で抗CCP抗体が有用なこと、1999年にメトトキサレートが承認され予後不良とされた患者の第1選択薬として使用されていることなどについて説明がありました。また、関節リウマチ治療の目標は完全寛解であり、早期からきっちりと治療し関節の破壊を防ぎ、機能的にいい状態で過ごせることをめざしていきましょうと呼びかけがありました。

**「関節リウマチの手術治療ってどうするの?」**

リウマチ科・整形外科部長 中川 夏子

寛解をめざしたリウマチ治療は、薬物治療と手術療法のコンビネーションであること、関節の破壊を防いだり、破壊された関節の再建をする手術により、痛みをとる・機能を回復させる・日常生活動作を改善する・外観を良くするなど効果が得られると説明がありました。

**「リウマチ患者さんの日常生活のポイント～長くつきあっていくために～」**

慢性看護専門看護師 正井 静香

関節リウマチは慢性疾患であり、診断初期からきちんと治療をし、症状が安定していても長期的に通院、治療をしていくことの大切さについて話がありました。うまくつきあっていくために、第一に病気について正しく理解することを挙げ、疑問や質問は遠慮なく医師や看護師に尋ねるよう勧めがありました。

参加者は約130名あり、近隣はもとより神戸や姫路方面からもご参加いただきました。

リウマチ友の会の方々のご協力もいただき、パンフレットや自助具の展示を行い、様々な情報提供をすることができました。

このたび竣工した「南棟」において、本年12月からリウマチ科・リウマチ膠原病センターが本格的な診療を開始します。今後も多職種が連携し、皆様のご期待に応えられるよう、リウマチ・膠原病診療をさらに発展させていきたいと考えています。





# 形成外科

形成外科医長 櫻井 敦

## レーザー治療

レーザー(LASER)とは、Light Amplification by Stimulated Emission of Radiationの頭文字を取ったもので、直訳すると「誘導放出による光の增幅」となります。言い換えると、「きれいに波のそろった光を干渉させることにより、極めて高出力のエネルギーを得たもの」とでも言えましょうか。うーん、あまりスッキリとしませんね(笑)。

レーザー光線は自然界には見られない人工の光で、単一の波長で位相がそろっており、散乱せず直進して、非常に明るいという性質を持ちます。また生体組織に及ぼす作用の一つに光熱作用が挙げられます。これはレーザー光線を皮膚に当てた場合、通常の光と同様に、皮膚表面あるいは表皮・真皮内で反射や散乱・吸収を繰り返しながら、標的物質に吸収され熱に変わり組織を破壊・消失させるというものです。標的物質の中には水や、シミ・アザの原因となるメラニン、血液中に含まれるヘモグロビンなどが挙げられます。レーザーの種類によって標的物質が変わるために、ターゲットを絞った、より選択的な治療が可能となっています。

形成外科では、細胞に含まれる水分を標的とする「炭酸ガスレーザー」と、メラニンを標的とする「アレキサンドライトレーザー」を用いて様々な病変の治療を行っています。

### 炭酸ガスレーザー

炭酸ガスレーザーは組織内の水分に吸収され、特定の色調（メラニン、ヘモグロビン等）には反応しません。組織内で光エネルギーから熱エネルギーに変わり、細胞内の水分が瞬時に蒸散することにより組織を破壊します。また組織に照射する際、微細な血管、リンパ管、神経終末がシールされるため、術野は明瞭となり、術後の出血、腫脹、疼痛も少ないとされています。当科では、高性能スキャナーを備えたLumenis Laser 30C（日本ルミナス社製）を配備しております。機器の特徴として、フォーカスビームによる「面」での無炭化蒸散が可能であり、周辺組織への熱損傷を最小限に抑えることができます。

蒸散治療の適応としては、表在性の隆起性皮膚病変（脂漏性角化症（症例1）、色素性母斑（症例2）、尋常性疣贅、表皮母斑等）、血管拡張性肉芽腫、壞死組織、不良肉芽のデブリードマン等があります。特に眉毛周辺、鼻部、眼瞼縁、口唇等、通常手術の様に切除縫合すれば、形態的に変形を来しやすく、整容的に問題となる部位で非常に有用です。また出血を抑えながらの処置が可能となりますので、ストーマ周囲の不良肉芽治療にも効果を発揮します（症例3）。



症例1 脂漏性角化症



症例2 色素性母斑

症例3  
ストーマ周囲に  
易出血性の不良  
肉芽を認める  
炭酸ガスレーザー  
照射後1週間

症例4 左上眼瞼太田母斑

症例5 老人性色素斑  
(外用剤も併用)

### Qスイッチアレキサンドライトレーザー

アレキサンドライトレーザーは、主にメラノソームに吸収されるという特性を持つため、メラニン色素系の疾患に効果を発揮します。当科では、ALEXLAZR（キャンデラ社製）を配備しております。「Qスイッチ」とはエネルギーの高いレーザー光を得るために使用されるレーザー技術の事です。これにより、パルス幅が短くピーク出力の高いレーザー光が得られるようになり、臨床効果が飛躍的に向上しました。保険適応としては太田母斑（症例4）、異所性蒙古斑、外傷性異物沈着症（外傷性刺青）があり、いわゆるシミ（老人性色素斑）や装飾刺青は自費診療となります。

自費診療に関しましては、色調、色素の深さ等により適応のない場合もありますので、治療に際しては事前の診察が必要となります。また、外用剤、レーザーを用いた「シミ治療」（自費診療）も行っております。火曜日以外の平日（午前中、9:00～11:00）に受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。



# 循環器内科

循環器内科部長 奥田 正則

## A 循環器救急における救急部との連携

循環器内科は、現在、担当常勤医4名、非常勤医1名の計5名で診療に当たっています。加古川エリアは循環器内科が充実しており、後発である私共の規模は決して大きくありません。しかし、兵庫県内有数の3次救急救命センターと連携することで、循環器の重症救急に昼夜問わず速やかに対応できます。たとえば、ドクターヘリ、ドクターカーで運ばれる心肺停止をきたした急性心筋梗塞患者さんは救急医の処置を受けながら搬送され、必要であれば来院後直ちに人工呼吸器や補助循環サポートの処置が施されます。そして、すぐに当科で冠動脈インターベンションを行い、その後は救急医によるEBMに基づいた高度のICU管理が行われます。救急部との間でカンファレンスを行いながら、ICUからHCU・一般病棟へと移ります。このような超重症の心筋梗塞患者さんの臨床経過は様々ですが、後遺症を残さずに早期退院、社会復帰ということも可能となっています。

## B 日常診療の対象

日常診療としましては、基本的に全ての循環器疾患に対応しています。現在、主な入院患者さんは冠動脈疾患と心不全、不整脈ですが、高齢の患者さんでは循環器疾患以外の問題を持った方も数多くおられ、常に総合内科的な視点を忘れないようにしています。多くの臨床的問題をかかえた高齢患者さんの入院依頼もできるだけ受け入れますのでよろしくお願い致します。当院だけで対応が困難な心疾患は、緊急の心臓血管手術が必要な場合やカテーテルアプレーション・ICD植え込み術などの高度な不整脈治療をする場合などで、その時は近隣の病院と適時連携しながら対応しています。

## C 紹介患者さんに対する外来診療・入院診療

当科の循環器系の検査設備は整っており、必要な諸検査が比較的速やかに行えます。たとえば、外来診療であれば、採血、胸写、ECG、ABIなどの基本検査はもちろん、心エコー、頸動脈エコー、下肢静脈エコーなどの超音波検査や胸部CTは初診予約当日に可能なことがほとんどです。結果がシンプルであれば、当日に返書をお返しできます。予約検査では患者さんのご都合にもよりますが、ホルター、2週間装着可能なECGイベントレコーダー、24時間ホルター血圧計、心筋シンチ、冠動脈造影、簡易ポリソムノグラフィー、ポリソムノグラフィーなどは、(例外はありますが)多くの場合2~3週間以内に施行可能です。結果を急がれる症例であれば当科に精査依頼をしていただければ、できるだけ速い対応をしてご報告致します。また、来年度からは、運動負荷テストとしてのCPXと心臓MRIが施行可能となる予定です。

## D その他の疾患

### ①下肢末梢動脈疾患

当科では放射線科と協同して下肢のPTAを行っています。重症下肢虚血に対しては、足病変チームをつくって、皮膚科、形成外科、糖尿病内科、心臓血管外科とともに取り組んでいます。

### ②深部静脈血栓症・肺塞栓症

当日に、Dダイマー、下肢静脈エコーなどによるスクリーニング検査、さらには胸部造影CT・下肢静脈造影CTを行って、診断をつけば入院の上、IVCフィルターの挿入やヘパリン投与下での抗凝固療法の開始を行います。重症の肺塞栓の場合はPCPSで対応しICU管理とします。

### ③肺高血圧症

心エコーで原因不明の肺高血圧症が見られれば、積極的にスワンガンツカテーテルを施行して診断をつけます。さらに、原因や治療法を確定するために、神戸大学とも連携しています。

## 地域医療機関の先生方へ

以上のように、循環器内科は、コンパクトな科ではありますが、地域の総合病院の循環器内科として、地域の先生方のニーズに応えるだけの機能を有しています。地域医療に貢献できることを強く願っており、先生方のご協力をお願いしたいと思います。

■外来診療表

	月	火	水	木	金
1診	福田	濱田	奥田	福田(午後)	奥田
2診			片嶋		片岡



■スタッフ紹介

奥田 正則	平成2年卒
福田 亨	平成12年卒
片嶋 隆	平成13年卒
片岡 俊哉	平成13年卒
濱田 昌範	昭和58年卒

# 乳がん患者会「虹の会」のご紹介

当院の乳がん患者会は、2011年9月22日にスタートしました。きっかけは、その半年前に患者さんから、「患者会をつくれたらいいなと思っているのですが」という声をいただいたことでした。「困っていることや悩みを共有して支え合う、ピアサポートの場をつくりたい！」、目指すところや思いは、患者さんも医療者も同じでした。開始から半年後、患者会の名前を決めようという話になり、話し合って「虹の会」という名前に決定しました。

患者会は世話役の方々を中心に、自主的に運営されており、医療者はその運営を後ろからサポートするという形をとっています。これまで順調に回を重ね、気がつけば既に61回を数えました。参加者の数は開始当初は10数名でしたが、だんだんと増えて、現在は毎回30名程度の方が参加されています。会ではいま思っていることや悩みごとなどを自由に語り合うスタイルを基本とし、リハビリ体操も行っています。また、その時の希望に合わせて、ミニレクチャー（リンパ浮腫、遺伝性がんなど）の企画や、お花見、音楽会、クリスマス会などのイベントも実施しています。

参加されている方々の背景は、手術前の方、治療中の方、再発された方などさまざまですが、参加された方の反応はとても前向きで、医療者からもみてもピアサポートの場として有効に機能していることがわかります。医療者自身もいつも患者会からパワーをいただいていると感じるほど、笑いあり涙ありの充実した会で、2時間はあっとう間に過ぎます。さらに、終了後は希望された方たちでランチに移動し、おいしい食事をとりながら、楽しいひと時間を過ごされているようです。

患者会への参加は、当院の受診歴がなくても可能です。事前の申し込みは必要なく、会の途中からの参加や、途中退席も可能です。参加された方からは、続けて会に参加したいという声をたくさんいただいており、今後も患者会の継続を支援していきたいと思っています。

患者会の様子



## 参加された方からの声

- ・色々人の話が聞けてよかったです。
- ・自分の思いを吐き出せてとてもすっきりしました。
- ・病気のことは誰にも話していないので患者会は楽しみです。
- ・色々不安もありましたが、皆さんの話を聞いて無理せず頑張っていこうと思いました。

兵庫県立加古川医療センター  
「虹の会」のご案内

- ♪乳がんの診断を受けてからの戸惑い、これから受ける治療の疑問、再発・転移への不安、女性にしかわからないこころの悩み・・・  
一人で抱えていませんか？
- ♪病のこと、あなた自身のことを話して気持ちを楽にしてみませんか？
- ♪同じ体験、悩みをもつ仲間同士がふれあい、語り合い、互いを支え合う そんな場になればとスタートしました。

一緒におしゃべりして、楽しいひとときを過ごしましょう。どうぞ気軽に立ち寄りください。

★日時：毎月第4木曜日 10:00～12:00  
★場所：2階 講堂

\*日程や場所は変更することもあります。詳しくは、下記お問い合わせまでご連絡ください。  
乳腺外科外来ブロック受付：079-497-7000（代表）